

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

中国木材株式会社 本社工場

(2) 事業所の所在地

広島県呉市広多賀谷3丁目1番1号

(3) 業種

一般製材業(No.1211)

(4) 事業所位置図 末尾に記載

2 計画の期間

本計画の期間は、平成26年度を基準年度とし、平成29年度から平成33年度までの5年間とする。

3 計画の基本的な方向

1. 基本的な考え方

地球環境の保全を経営の最重要課題という観点で事業を見つめ、「木を活かすために何をすべきか」という理念を基に、常に孫倫資源を余すところなく活用し、地球温暖化防止については自らの事業活動のみならず、当社の製品を使用する消費者のことも考慮することにより温室効果ガスの排出抑制に努めていきます。

2. 方針

- バイオマス発電などによる森林資源の効率的な活用の促進
- 高効率機器導入による省エネルギーの推進
- 無駄なエネルギー消費の削減
- 廃棄物の排出抑制、リサイクルの推進
- 国産材の有効活用などによる環境保全活動への積極的な参加

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成26年度	平成28年度
二酸化炭素	7,402	6,367

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成26年度	平成28年度
二酸化炭素	0	0

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成26年度	平成28年度
メタン	1,849	2,009
一酸化二窒素	19,919	17,472
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF6 NF3)	0	0

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 年度)		削減目標		目標年度 (平成 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)	
エネルギー起源CO2					0
非エネルギー起源CO2					0
メタン					0
一酸化二窒素					0
その他 温室効果ガス					0
温室効果ガス 実排出量総計					0
温室効果ガス みなし排出量		-			0
目標設定の考え方					

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

(b)原単位数値
 エネルギー起源CO₂：製品生産量(千m³)
 メタン・一酸化二窒素：バイオマスボイラー蒸発量(千t)

単位：排出量(t-CO₂)，原単位数値(kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成26年度)			原単位 削減目標	目標年度 (平成33年度)		
	排出量 (a)	原単位数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO2	7,402	723	10.24	7.0	8,090	850	9.52
非エネルギー起源CO2							
メタン	1,849	303	6.094	0.0	3,474	570	6.094
一酸化二窒素	19,919	303	65.65	0.0	37,420	570	65.65
その他 温室効果ガス							
総排出量	29,170						
エネルギー消費原単位 (原油換算k l)	-	-	8.723	7.0	-	-	8.110
目標設定の考え方	・エネルギー起源CO ₂ 排出量は年1.0%の削減率 ・メタン、一酸化二窒素については、平成29年7月より新規バイオマス発電設備が稼働予定のため増加見込み。また、木質バイオマス資源の積極的な活用は大幅なエネルギー起源CO ₂ 排出量の削減に寄与する反面、メタン・一酸化二窒素が増加する。このため削減目標は設定しない。						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項 目	数値目標	具体的な取組み
1	電力原単位の削減	電力原単位を7%以上削減	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオマス発電設備の稼働率向上 ・高効率照明器具への更新 ・無駄な電力消費の削減
2			
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種 類	合計量
1		
2		
3		

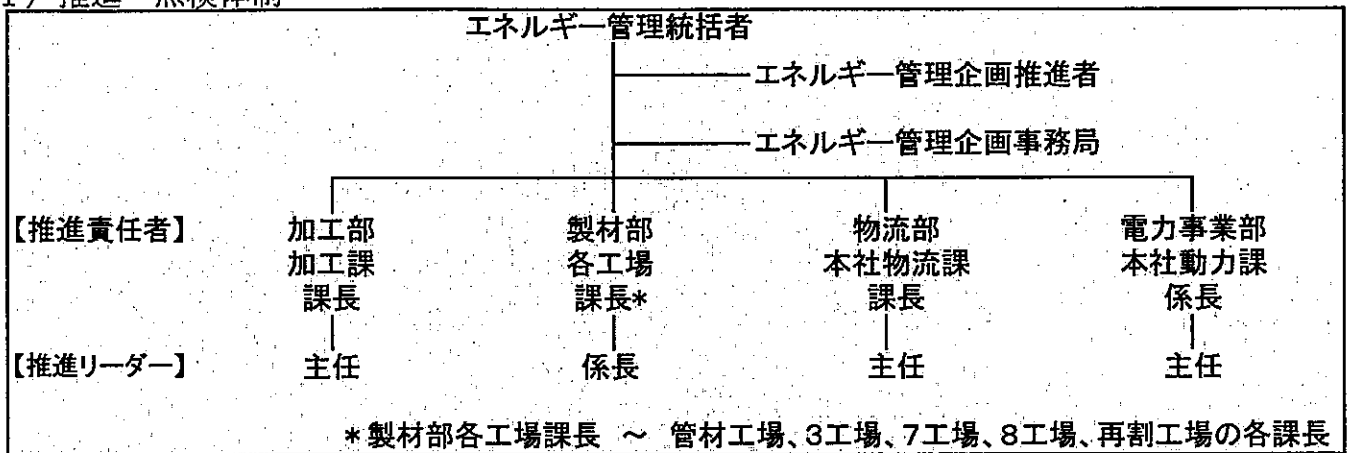
○ その他の取組み

	項 目	数値目標	具体的な取組み
1	再生可能エネルギー（木質バイオマス）の有効活用	温室効果ガス削減量 年間 22,000t-CO2以上	バイオマスボイラーによる発電および蒸気利用。
2	再生可能エネルギー（太陽光）の有効活用	温室効果ガス削減量 年間 150t-CO2以上	太陽光発電設備による発電
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

エネルギー管理企画事務局を中心として敵機的に温室効果ガスの排出状況・原単位の把握を行ない、問題点の洗い出しや新たな取り組みなどの検討を行なう。

(3) 計画書等の公表

当社ホームページ上で公開し常時閲覧可能とする。